

第五中学校は、第一小学校と第四小学校とともに、小中一貫教育を合同一体で行っています！

地域運営学校 八王子市立第五中学校



# 学校だより

■ 発行 八王子市立第五中学校 八王子市明神町4丁目19-1  
 ■ 代表電話 042-(642)-1633

## 【教育目標】

- ◎ 人・地球との共生 〈より高い人間性をめざす人〉
- 未来社会への知性 〈学び続ける人〉
- 心身共に健康 〈健康で生命を大切にする人〉

第5号 令和7年9月1日 月曜日



## 令和7年度 第1回 学校評価アンケートの集計結果

令和7年度 2学期が始まりました。2学期初日には、学校になかなか来られなかった生徒が登校できたり、元気に挨拶をしてくれる生徒もいたり、生徒の成長を感じ取ることができました。2学期も引き続きよろしくお願いいたします。

さて、1学期にお知らせさせていただきました、令和7年度第1回学校評価アンケートの集計結果を掲載いたします。学校評価は、学校の教育課程に実施における成果と課題を見取り、課題改善に向けて取り組む一助とするため、回答頂いております。

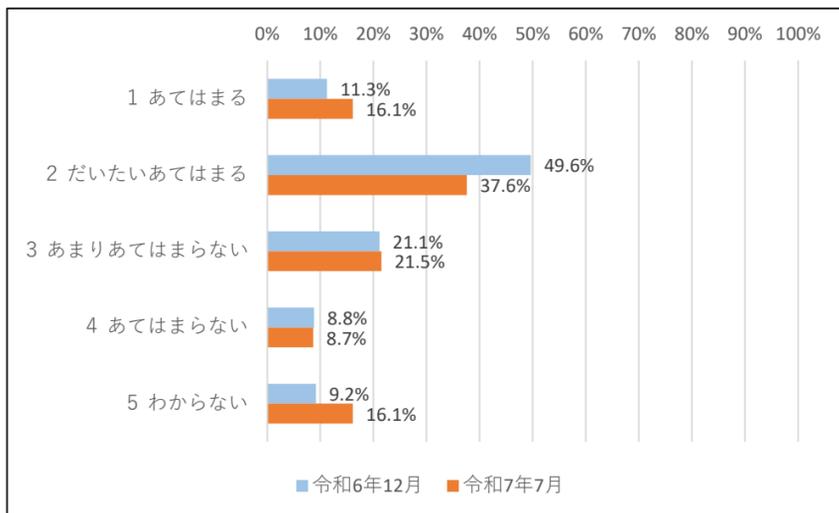
昨年度の学校評価を受けて、令和7年度に改善できたことも多々ありました。令和7年度のアンケート結果を踏まえて、令和8年度の教育課程編成に向けて準備等を進めて参ります。保護者の皆様には御多用の中、御協力を頂きましたこと、感謝申し上げます。

今回の回答率は第1学年が75.9%、第2学年が68.4%、第3学年が66.9%、計66.9%でした。回答では、「4 避難訓練などの安全管理」「5 道徳教育」「6 いじめ対策について」で肯定的な回答を昨年度より多く頂きました。学校として力を入れている所ですので、さらに充実できるよう進めて参ります。一方で、「9 学習活動に対する評価について」の項目では「あてはまらない」「あまりあてはまらない」の否定的な回答が2割を超えています。学習評価は、指導と評価を一体化させることによって生徒の学びを支え、学習指導要領に示された内容を確実に身に付けさせていくことが大切です。さらなる改善と正しい情報を丁寧に説明し、より適正で信頼される学習評価として高められるよう、「評価基準を明確にし、生徒、保護者に丁寧に伝えること」「学習の過程と成果の両面を的確に捉え、根拠を基に総合的に評価すること」「これまで同様、主観を排し、全ての生徒に対して公正、公平な姿勢で臨むこと」「個々の生徒の特性や状況にも配慮し、励ましとなる評価を心がけること」等に努め、可能な限りさらに改善に向けて取り組んで参ります。

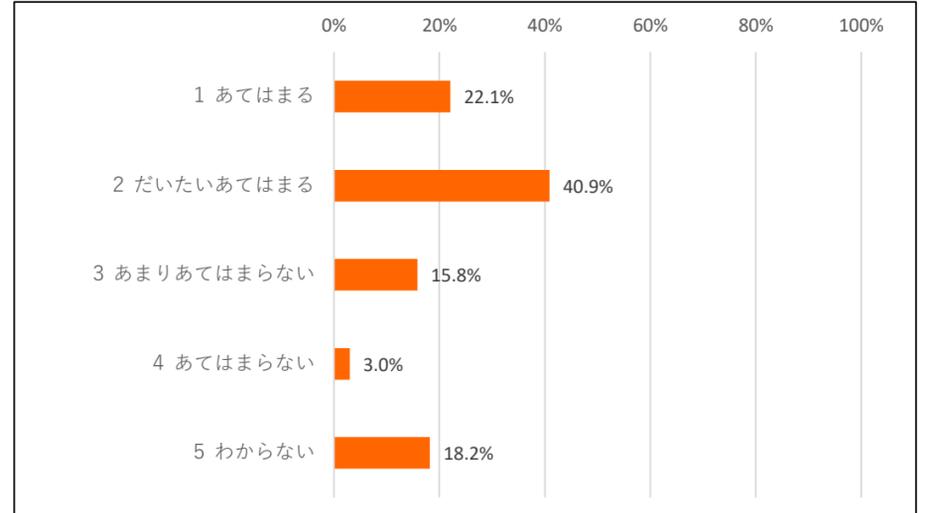
今後も保護者の皆様から頂いた貴重な御意見や見方、考え方を踏まえ、よりよい学校経営に生かして参ります。12月には第2回の学校評価を予定していますので、御協力をお願いいたします。

※集計結果のグラフ2、7、11は令和7年度に新規に設定した質問となっておりますので、経年比較のグラフではありません。

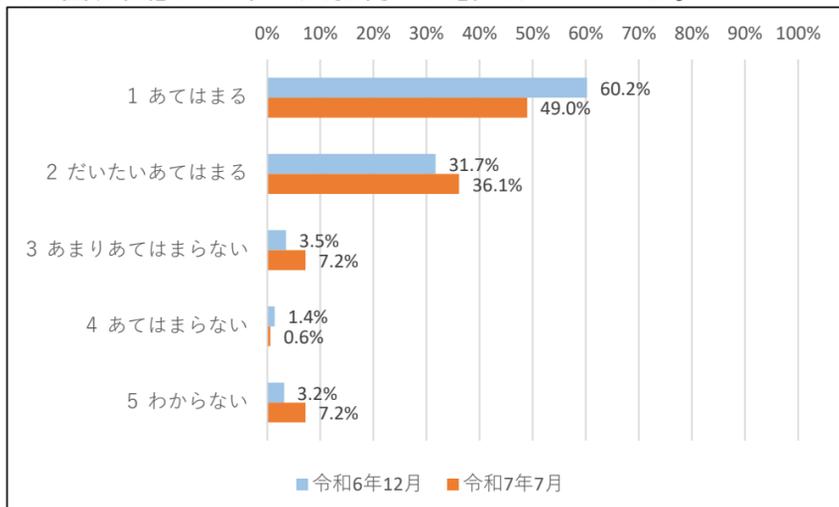
1 学校の経営方針の理念『最上位目標である学校教育目標に帰結する教育活動を地域とともに実現する学校』を知っている。



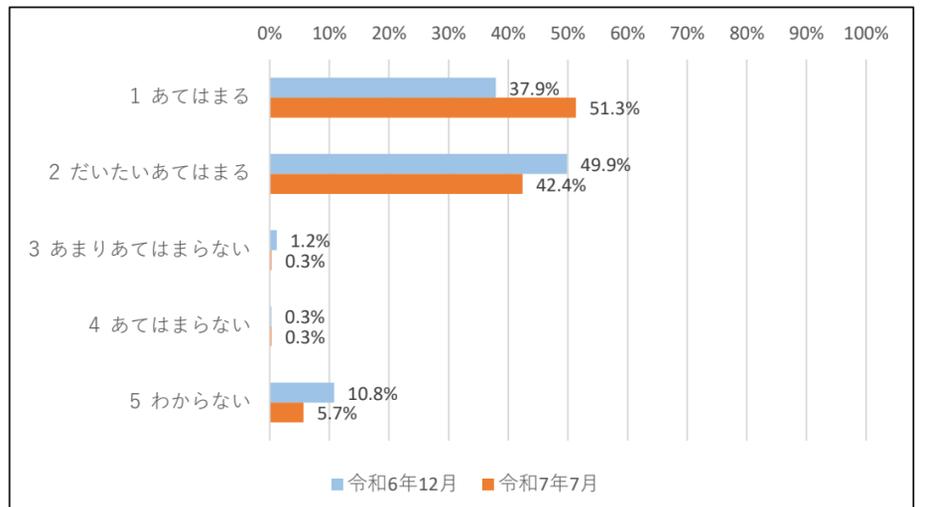
2 学校は特色ある取組(「義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組」「学力向上の取組」)を行っている。



3 本校が第一・第四小学校と合同で行う取組(「行事への参加や運営参画」「小中一貫教育の日」)を知っている。

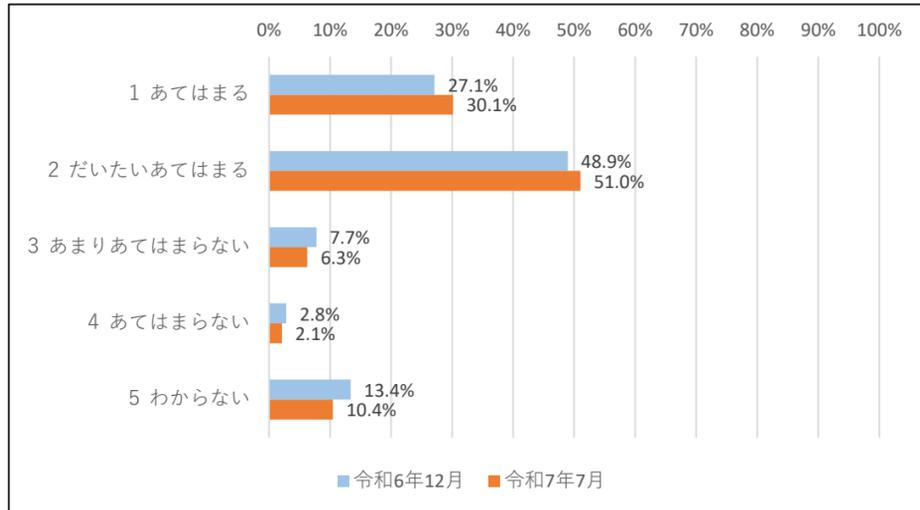


4 学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。

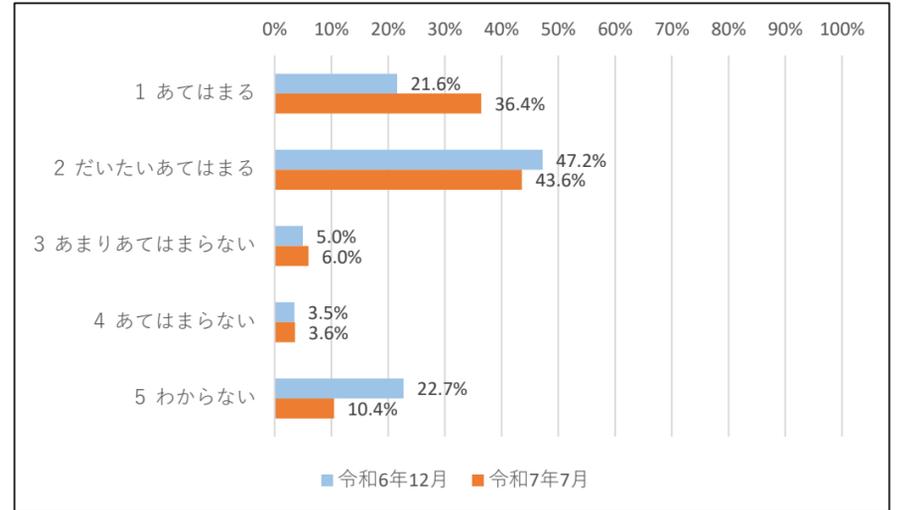


# 令和7年度 第1回 学校評価アンケートの集計結果

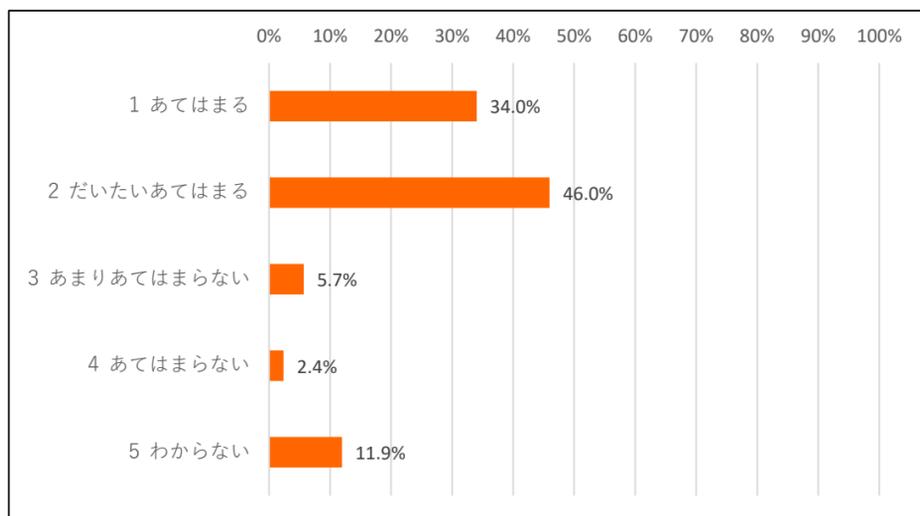
5 学校は、「特別の教科 道徳」を含む教育活動全体を通して、子どもたちが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動できるような教育をすすめている。



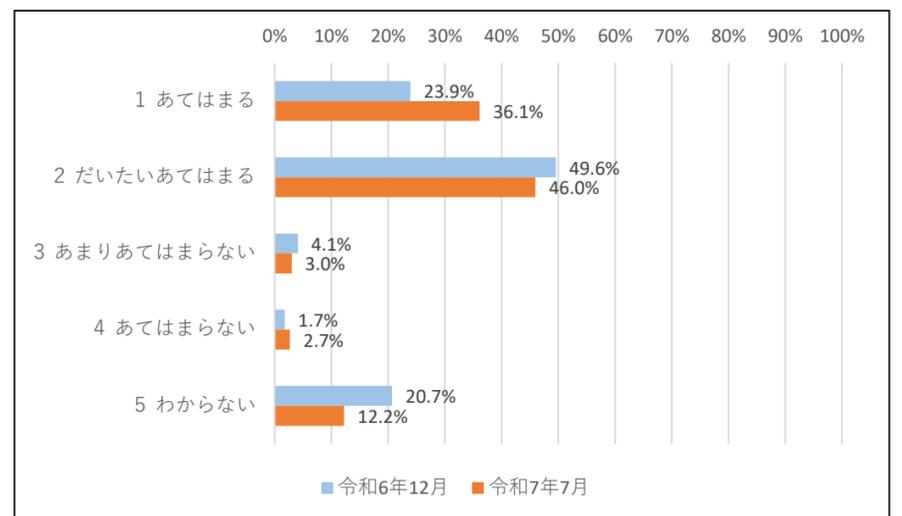
6 学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。



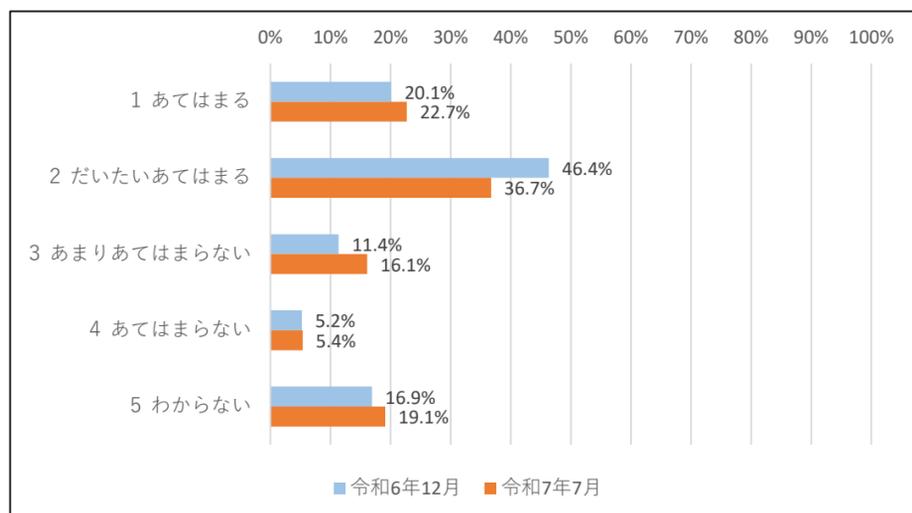
7 子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。



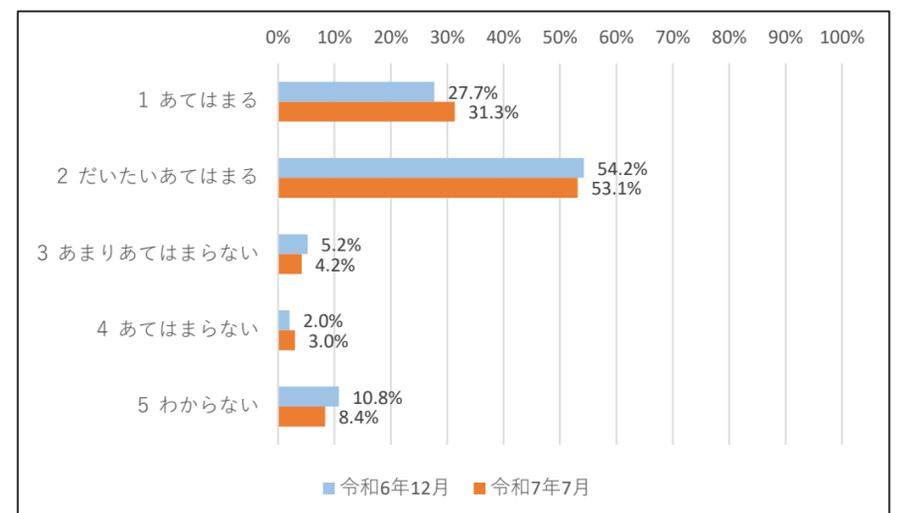
8 学校は、授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器(1人1台の学習用端末等を含む)の活用などの工夫に取り組んでいる。



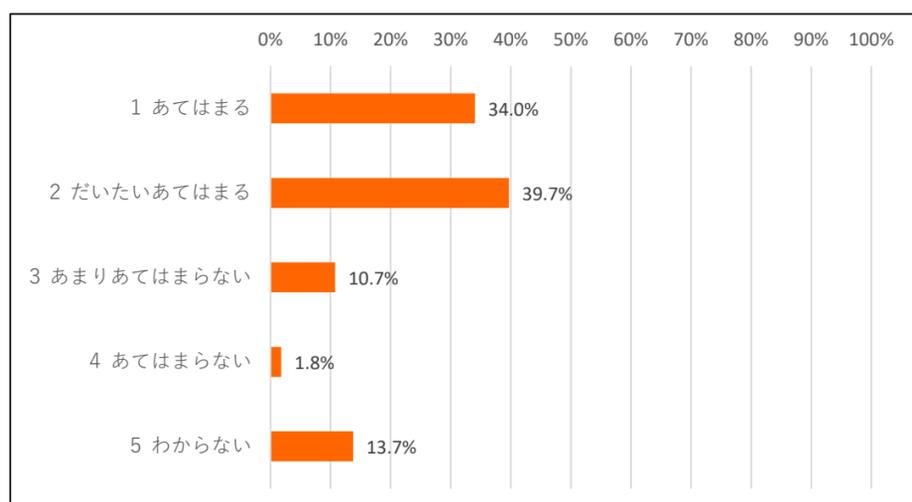
9 学校の学習活動に対する評価は、適切・公平である。



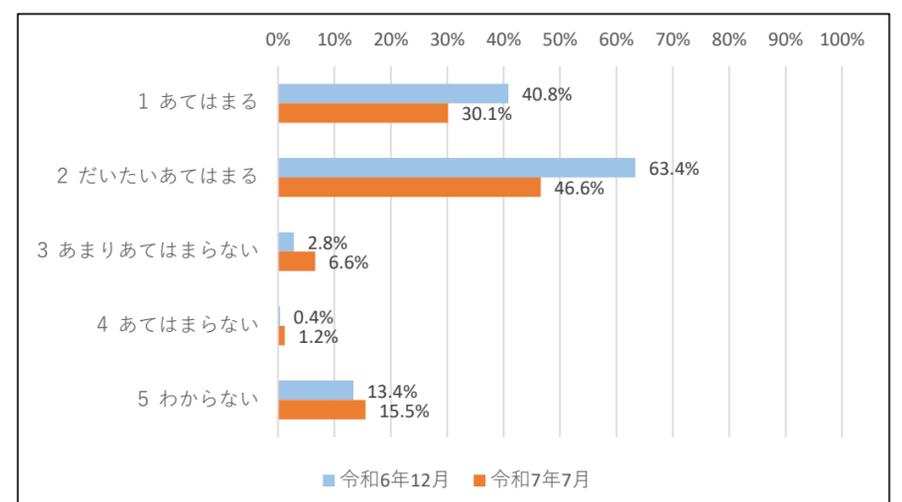
10 学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。



11 学校が、「第五中学校版 キャリア・パスポート」等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っていることを知っている。

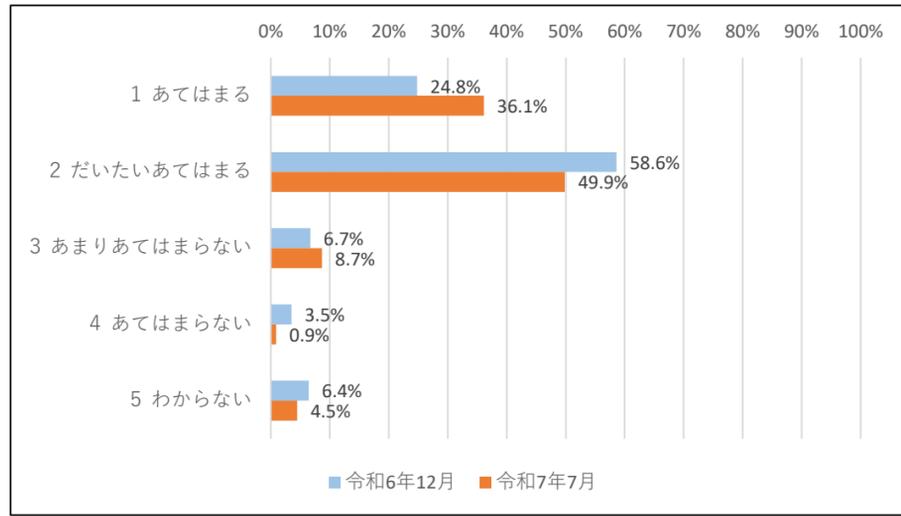


12 学校は、学習環境の整備に取り組んでいる。

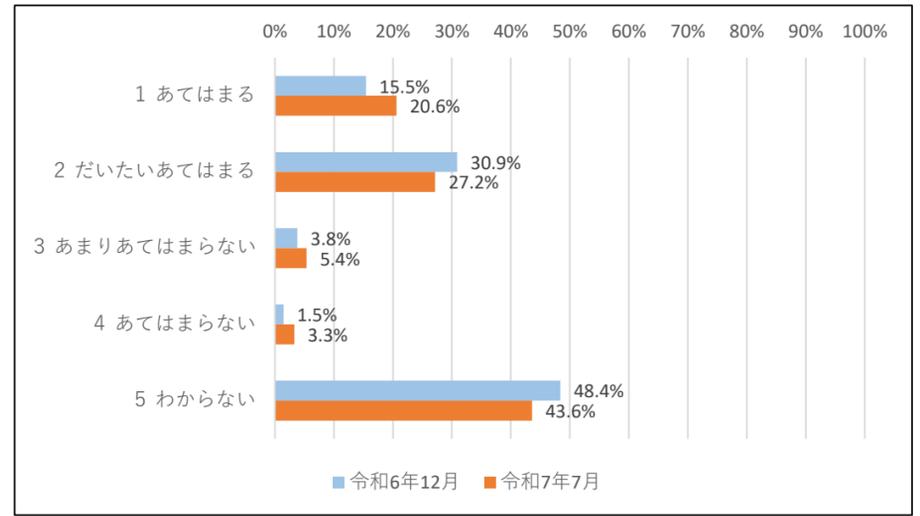


# 令和7年度 第1回 学校評価アンケートの集計結果

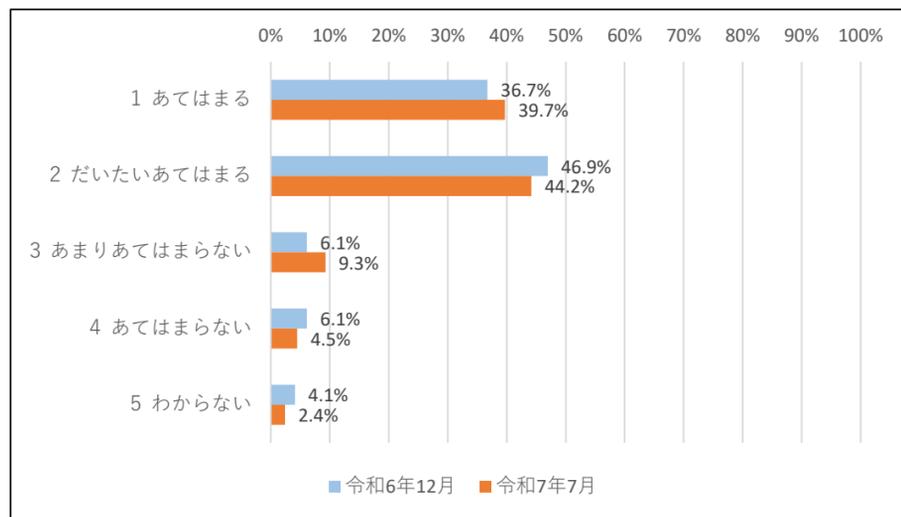
13 学校は、保護者に対して、学校だよりやホームページ等で適切に情報を提供している。



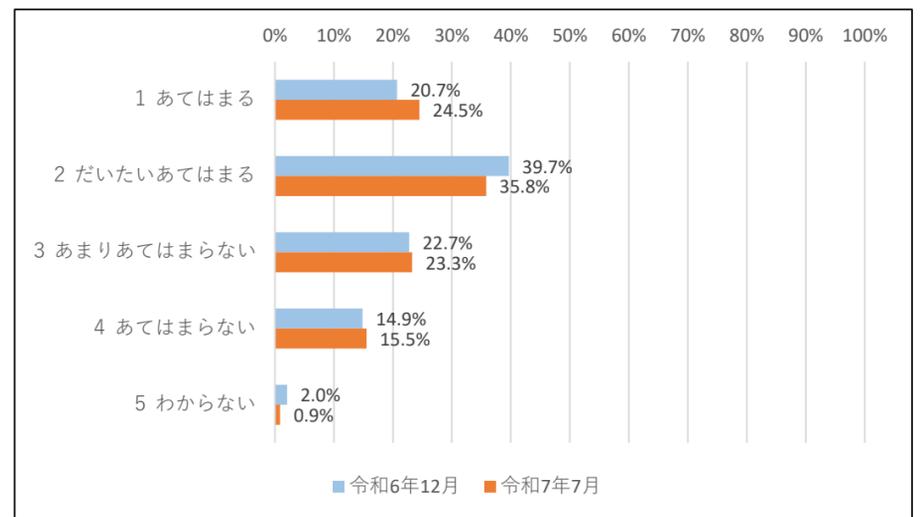
14 学校は、特別支援教育(特別な支援を必要とする子どもに対しての教育)に取り組んでいる。



15 子どもは、楽しく学校生活を送っている。



16 子どもは、家庭学習をする習慣ができています。



～自由記述回答～ (6件)

〈1学年〉

・評価、評定が知識・技能1、思考・判断・表現1、主体的1に割合が変更されました。この変更により影響を受ける生徒は少ないと説明がありました。実際、全学年の成績より本当に影響を受ける子が、学校側が想定している数字より多くないか、検証し数字での説明を求めます。我が子は明らかにマイナスの影響を受けています。多くの生徒がマイナスの影響を受けるのであれば、元に戻すべきではないですか。

【回答】 現行の学習指導要領に改訂された時に、本校では知識・技能に重みを置いた割合として学習評価を続けてきました。一方で、学習内容の達成状況を見ると、教科によって、思考力・判断力・表現力における学習内容の達成に課題が見られる状況があります。また、主体的に取り組む態度は、学習や学びを深める状況において必ず関連する観点ですが、これまで設定してきた割合は3観点の中でも低い割合となっていました。知識・技能だけを重点に身に付けるのではなく、3観点をバランスよく身に付けさせ、達成度を見取することは生徒にとってより適正な評価に近づけられるものだと考えています。現在の入学者選抜等における学力検査や私立の試験においても、知識・技能だけでは解くことができない問題も多数出題されていることを踏まえれば、本校の各考査の問題の質や観点における重みづけの変更は生徒にとっても学習内容の達成状況を図る上でメリットはあるものと考えます。なお、御指摘の「重みの変更により影響を受ける生徒」について、3学年のある教科で精査したところ、ほとんどの生徒が総合達成率プラスマイナス1%の範囲内でした。今後も、現在国で議論されている次期学習指導要領の改訂に向けて、指導と評価の一体化の精度を上げられるよう校内で研鑽を進めて参ります。

〈2学年〉

・お世話になっております。担任には面談の際お話しさせて頂きましたが、一応記入させて頂きました。定期テストの過去問についてです。上の三つ違いの兄、姉がいる家庭では、過去問で勉強ができる為、公平ではないと思います。しかも、先生が違っていても全く同じ問題が出ていた、とも聞いています。内申も違って来るかもしれませんし、やはり公平ではないのではと思います。できれば、平等に過去問を生徒に配っていただけませんか。ご検討をお願い致します。

【回答】 近年は一部の学習塾などで過去問題を配布し、各学校各教員の出題傾向を分析して指導することや御指摘の通り、きょうだいから過去問題をもらうなどの状況もある聞いています。毎回、できる限り同じ問題が出題されないこと、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度の3観点を踏まえたものまたは関連している問題となるよう精査をさらに進めて参ります。一方で、授業で学ぶ内容は同一のものとなること、教科書の例題レベルの問題では「頻出問題」として各考査における問題等で類似することもあります。今後も、過去問題は配布することはありませんが、御不安が少しでも解消できるよう、生徒の学びと出題問題の質の高さをめざし、過去に出題された問題とならない対応を含め丁寧に進めて参ります。

## 〈2学年〉

・いつもお世話になっております。今年度、一学期の中間考査がありませんでしたが、期末のみですと範囲が広がりますので中間も実施していただきたいです。あと、暑さが厳しいので夏休み期間を他の近隣中学校のようにもう少し長くしてほしいです。体育着登校に関しては助かっていますが、暑さ対策のためにTシャツではなく体育の授業以外は少しでも涼しいよう、Tシャツは出てOKなどにしていただけるとありがたいです。

・今年度より25日終業式となりましたが、世間的に18日終業式の学校が多く、22日～25日の高等学校説明会に参加できません。3年生は部活動、塾で夏休みも大変多忙であり、高校見学に行ける日も限られています。学校も夏休みに高校見学に行くよう促すのであれば、近隣高校と休みは合わせてもらいたいです。定期テストで先生により点が取りやすい、取りにくいというのは不公平ではないでしょうか。例えば、2年生の保体のテストは全体的に点数が取りやすいよう作成したと先生がおっしゃっていたそうです。しかし3年生の保体のテストは短答式の問題ばかりでした。選択式(記号)の問題もなく解くだけでかなり時間がかかりそうなテストです。内容もそこまで細かい知識が必要だろうかと思うものでした。テストのクオリティに差があるべきではないと思います。学校では、テスト作成に関して、どのような取り組みをされているのでしょうか。五中では内申が取れないと言われる要因の一つがテストの難しさではないかと思えます。実際に他校のテストを拝見し、五中のテストの難易度が高いと感じたことがあります。昨年3年生のテストであまりにも平均点が低かった為、救済措置として再テストを行ったという経緯を考えましても、テストの難易度の高さを疑わずにはられません。学校側は内申が取りにくいことの否定として、昨年3年生の全国テストの順位が標準的であり、決して五中生の学力が低いわけでもないというお話をされます。学力のある生徒でも内申が取れないという声が上がっているのが現状であれば、テストの難しさが要因と考えられると感じています。

【回答】・考査は生徒の学習の達成状況を見取るために行うものであること、授業の数時間をまとまりにした単元の学習を貫いて何ができるようになったかを見取る判断材料の一つとして捉えています。1学期の中間考査を廃止した経緯は、1学期は中間考査を行うに足る授業内容の範囲としては短いこと、単元の途中で、学力を身に付ける途中段階の考査の実施では学習内容の達成状況を十分に見取るだけの材料に値しないのではないかと捉えもあります。単元の途中までを考査の試験範囲とした場合、生徒にとっては逆に不利になることが考えられます。各教科担当が単元の学習の完了状況を踏まえ、必要と考える場合には、単元テストを実施し、より高い精度で確認することもできます。

・定期考査は、毎回各教科担当が作成し、教科内の教員で確認、その後管理職が点検して、複数の視点から学習指導要領が示す観点、学習内容、考査の範囲、既習状況等を十分に踏まえた内容となっているか全問を管理職が解きながら確認し決裁、実施をしております。場合によっては、考査問題として足る内容になっていない場合は各教科担当に全面的な修正、再起案をさせています。なお、教員に再度確認しましたが、救済措置のテストは行っていないと確認しています。おそらく、小学校5年生までの例題レベルの問題20点満点取れるまで繰り返しを解く、はちおうじっこミニマムのことか補習に関わるものではないかと思われま。

・八王子市では週当たりの授業時数を週28時間(他の区市町村は週29時間)から週27時間に変更した経緯から、大幅な授業時数確保が必要となっております。学校は教務部を中心に様々な試案を重ね夏休みの日数を減らして対応しています。御提案頂いた、これまで通りの夏休みの期間を長くする対応を取りますと、1か月当たり、土曜日授業を多くすることや受験期の3年生の授業短縮などを無くして授業を行うなどの対応が必要となってきます。現段階では、最善の対応を考え設定している状況です。生徒の昼食は市は給食センターの稼働も7月25日まで延長して対応できるようになり、保護者の方の負担軽減を図っております。暑さ対策については、今後も状況に応じて安全を第一に、できる範囲で可能な限り対応できるよう様々な御意見を踏まえて検討をして参ります。また、高校説明会については複数回設定されていることがありますので、本校の年間行事予定等を見て、参加できる日程等を判断いただき参加いただければと思います。今回の課題については、どのようにしたら改善できるかを考え、学校ができる範囲内で対応できるか、検討して参ります。

・半ば義務的に制服を購入しましたが、楽だからとジャージ登校ばかりでおかしいと感じております。本人に聞くとほとんどの生徒がそうだし…。体育の授業がある日などは理解できますが、学校側としてはどのようにお考えでしょうか。

【回答】・夏の標準服は物価高騰による保護者の負担軽減を図るため、購入は必須とはしていないこと、また、視点としては、生徒の安全(熱中症、暑さ対策)として体育着登校等を令和7年度から実施しています。過去とは異なり気温等の上昇が顕著で、夏の標準服では毎日汗をかきながらもスラックス等が洗濯できず衛生面で心配などのお悩みも聞いています。様々な検討した結果、体育着やその他のTシャツ短パンでは毎日の洗濯が可能であり、かつ体感温度の減少など効果が期待できると考えて気温が高い季節は体育着登校といたしました。地球温暖化が進む中で、猛烈な気温による熱中症などの対策は早急に進める必要があることを御理解ください。また、夏の標準服も必要であれば購入できますので各御家庭の判断で活用いただいてもかまいません。今後も、熱中症防止等のため、登下校時の帽子や日傘の対応なども検討して参りたいと考えております。

## 〈3学年〉

・いつも子どもたちへのご指導ありがとうございます。3学年の子どもをもつ親です。先日、進路指導の説明会の時、校長先生のお話で、必ずしも高校進学しなくても良いという趣旨のお話がありましたが、親としては大変気になりました。実際、我が子も去年「先生が高校へ行かない子もいるって言うし、私立高校へ行かなくてもいい」という事を言い始めました。学校の指導で、実際に高校進学しない場合の進路の話、その場合のメリット、デメリットも合わせて指導して頂いているのでしょうか。大変気になりました。又、3学年音楽担当の教員にクラスの女子が泣かされたという話を聞きました。子どもも音楽の授業をとて嫌がっています。指導方法が適切なのか疑問です。

【回答】・中学校を卒業する段階で義務教育が終了となることから、その先の進路は自ら切り開いていく必要があります。中学校卒業後の進路選択は、これまでの人生で最も大きな自己決定をする場面となります。現状、多くの生徒が高等学校を始めとする上級学校に進学する道を選びます。確かに、進学することは将来の可能性を広げる大きな一歩となりますが、進学すればそれで安心というわけではなく、大切なことは「自分は何をしたいのか」「どんな学び方が合っているのか」などを当事者意識をもって選ぶことが大切だと思います。保護者や教師は様々な経験を踏まえて、必要な時に助言をするなど支援していくことも必要だと考えています。今回頂いたお話の中で、お子様がそのようなことを声に出して伝えられたということは、より真剣に自分の進路について考えてきた証であるとも考えられます。「周りも進学する人が多いから自分もなんとなく」などのような考えで、目標もなく進学することの無いように、そして最後は自分が決めることの大切さについて学校では進路指導の中で指導をしています。自分は何のために進学するのか、何を学びたいのか、どのような学びをしたいのかといったことを深く考え、御家庭でも話し合っ、納得いく進路選択をしていただきたいと思います。

・音楽の授業について、音楽科教員2名及び学年の教員に改めて確認しました。音楽の授業後に生徒が泣いてしまうということは2件ほどあったようですが、いずれも「教員の不適切な指導によって泣かされた」という状況ではなかったことを確認しております。しかし、これからも引き続き、音楽科を含め全教職員に対して、言葉遣いや伝え方等について改善するところは真摯に改善するよう、あらゆる機会を捉えて指導して参ります。今後も、音楽の授業に限らず教育活動全般に関わって不適切な指導の疑いがある場合を含め、その事実・状況等をお知らせ頂き、御相談ください。

